第１学年国語科学習指導案

児　童　１年１組　男子11名　女子14名　計25名
指導者　星　　峰子

１　単元名　　こえにだしてよもう
　教材名　　「くじらぐも」　（物語）

２　児童と単元について

（１）児童について

本学級の児童は、これまで物語文の学習において、「はなのみち」では挿絵と文の両方から内容を読み取っていく学習を、「おむすびころりん」と「大きなかぶ」では昔話や民話を楽しく読みながら場面の様子の想像を広げる学習を行ってきた。読みの方法としては、場面ごとに様子や登場人物の気持ちの移り変わりを想像したり、言葉のまとまりやリズム、強弱などに気を付けながら工夫して音読したりすることを経験している。また、「はなのみち」や「大きなかぶ」では動作化を学習し、「おむすびころりん」では、登場人物の気持ちをふき出しに書く学習を行ってきた。

朝学習や６月から始めた家庭音読などにより、音読に好んで取り組む児童が多いが、拾い読みや分かち読みの段階のため、挿絵から想像したことを叙述と結びつけることが困難な児童もいる。しかし、教材文のどこに書かれているか探そうとしたり、ふき出しに書こうとしたりする意欲はある。また、文章を書く際に、助詞や拗音、促音などを正しく表記できなかったり、自分の書いた文章を正しく読むことができなかったりする児童が多く、深く読み取った登場人物の心情を周囲に十分伝えられないことがある。意欲的に発言する児童が多く、友だちの考えと比べて聞こうとする様子も少しずつ見られるようになってきたが、自分の考えに自信をもつことができず、なかなか発言できない児童や自分なりの考えをもつのに時間がかかる児童もいる。

（２）単元と教材について

本単元「こえにだしてよもう」は、登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しむことをねらいとしている。

本教材「くじらぐも」は、体育の授業という身近な現実の中から、幻想の世界に入り、想像の中で十分に遊んだ後に、また現実の世界に戻る物語である。自分たちと同じ１年生の話であることから、親近感をもち、みんながあこがれるであろう「雲に乗ってみたい」「空の上から下の景色を眺めてみたい」などの思いを、作中の人物と一体になって読むことのできるおもしろさがある。

構成は、５つの場面からなっている。冒頭の２文で場面が明白に設定され、雲のくじらをたたみかけるように登場させ、これから起こることへの興味をわきたたせてくれる。そして、くじらと子どもたちとの呼応が始まり、心が通じ合い、子どもたちが雲の上にとび乗ることによって場面は大空へと変わる。大空を泳ぎ回り、やがてお昼の時間となり、楽しさを残しながら夢のような出来事が終わり、場面は再び地上へと戻る。

児童にとって、文字と挿絵から想像を楽しみ、登場人物に同化し、呼応する会話や繰り返しの表現のおもしろさなどを音声に表現したくなる教材である。これらの文章表現の特長を生かして、場面に合った読み方を工夫することができる。

（３）付けたい力と読みの方法　　【付けたい力】　　○読みの方法

【場面の様子について想像を広げ、叙述と結び付けて読む力】

○　場面の様子や移り変わりに気を付けたり、登場人物に同化したりして読む。
・情景描写　　・登場人物の様子や会話　　・繰り返しの表現

場面の様子について想像を広げて読むためには、作品を読み、その世界にたっぷりと浸ることが大切である。そこで、文を読みながら挿絵にも注目させ、そこから表情や雰囲気を読み取らせていく。さらに動作化をすることにより、「子どもたち」になりきって作品の世界を味わわせるようにする。また、ふき出しを付けた学習シートを準備し、想像したことを書かせるようにする。その際、児童の想像があまりにも勝手な方向に流れていかないようにするために、叙述に適宜立ち返らせ、考えの根拠となる情景描写や登場人物の行動・会話、繰り返しの表現を確認するようにする。

【語や文としてのまとまりや内容について意識しながら声に出して読む力】

○　はっきりとした発音で意味内容が明瞭になるように声に出して読む。
・語のまとまり　・語と語のまとまりや句読点　・声の大きさ　・言葉のリズムや速度

語や文としてのまとまりや内容について意識しながら声に出して読むためには、書かれていることを正しく読むことが大切である。また、意味内容が明瞭になるように句読点で区切ったり、ひとまとまりの語や文を意識したりして、はっきりとした声で読むことも大切である。そこで、なぞり読みや分かち読みなどから始めて、リレー読みや役割読みなどのさまざまな読み方を取り入れ、言葉のリズムや速度に気を付けながら、音読練習を繰り返し行うようにする。

3　単元の目標と評価規準

	単元の目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	◎「くじらぐも」に関心をもち、楽しんで読もうとする。	・文や挿絵を基に、場面の様子や登場人物の気持ちを想像したり、会話の部分を楽しんだりして読もうとしている。 ・自分の見た雲について、考えたり発表したりしようとしている。
読む能力	◎「くじらぐも」の場面の様子を想像を広げながら、楽しんで読むことができる。〈読むことウ〉 ○語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、声に出して読むことができる。〈読むことエ〉	・文や挿絵を基に、話の大体が分かり、場面の様子、子どもたちやくじらぐもの気持ちなどを想像を広げながら読んでいる。 ・語や文としてのまとまりや内容、声の大きさなどを考えながら、声に出して読んでいる。
書く能力	○雲とお話したいことを書くことができる。〈書くことア〉	・自分が見つけた雲や会ってみたい雲を想像して描いた絵に、手紙を書いている。
言語についての 知識・理解・技能	○漢字や片仮名を正しく読んだり書いたりすることができる。 〈言語事項イ〉	・新出漢字や片仮名の読み書きを理解している。

4　単元の指導計画と評価規準（11時間）

段階	時	学習活動	国語への関心・意欲・態度	読　む　能　力	言語についての知識･理解･技能
見通す	1	今までに見た雲の様子から雲のイメージを強くし､題名や挿絵などから、話の大体をとらえる。	今までに見た雲の様子を自分の言葉で発表しようとしたり、あらすじを発言しようとしたりしている。（観察・発言）	作者､登場人物､主人公､時、出来事などについて、題名や挿絵を手がかりにしてとらえている。（発言）	
	2	全文を通読し､印象に残った場面について話し合う｡新出漢字や片仮名の練習をし､語句の意味を確認する。	自分の心に残った場面を発表しようとしたり、友だちの心に残った場面を聞こうとしたりしている。（発言・観察）		新出漢字や片仮名を正しく読み書きしている。（観察･スキル）
	3	語や文のまとまりに気を付けて､音読練習をする。	進んで声に出して読もうとしている。（観察）	語や文のまとまりに気を付けて､声に出して読んでいる。（発言・音読）	
深める	4	まねをするくじらぐもを見た子どもたちの様子や気持ちを想像して読む。	進んで課題について考えようとしている。様子が分かるように、はっきりとした声で読もうとしている。（観察）	まねをするくじらぐもを見た子どもたちの様子や気持ちを想像している。様子が分かるように、はっきりとした声で読んでいる。（学習シート・発言）	
	5	くじらぐもにとび乗ることになるまでの子どもたちの様子や気持ちを想像して読む。		くじらぐもにとび乗ることになるまでの子どもたちの様子や気持ちを想像している。会話文をはっきりとした声で読んでいる。（学習シート・発言）	
	6 本時	くじらぐもにとび乗ろうとする子どもたちの様子や気持ちを想像して読む。		くじらぐもにとび乗ろうとする子どもたちの様子や気持ちを想像している｡語のまとまりに気を付けたり、会話文をはっきりとした声で読んだりしている。（学習シート・発言）	
	7	空を旅する子どもたちの様子や気持ちを想像して読む。		空を旅する子どもたちの様子や気持ちを想像している｡会話文や繰り返しの表現に気を付けたり、はっきりとした声で読んだりしている。(学習シート･発言)	
	8	くじらぐもとお別れをする子どもたちの様子や		くじらぐもとお別れをする子どもたちの様子や気持	

		気持ちを想像して読む。		ちを想像している。語のまとまりに気を付けたり、会話文をはっきりとした声で読んだりしている。 （学習シート・発言）	
まとめる	9	音読発表会をする。	内容について意識しながらはっきりとした声で読もうとしている。（観察）	内容について意識しながらはっきりとした声で読んでいる。（音読）	
広める	10 11	自分の見つけた雲や会ってみたい雲などを絵に描いたり、想像したりして手紙を書く。	今までに見た雲やこれから会ってみたい雲に対して、自分が話したいことを考え、発表しようとしている。（観察）	書く能力 今までに見た雲やこれから会ってみたい雲に対して、自分が一番話したいことを手紙などに書いている。 （学習シート）	助詞や句読点を文の中で正しく使っている。 （学習シート）

5　本時の指導（６／11）

（１）本時の目標

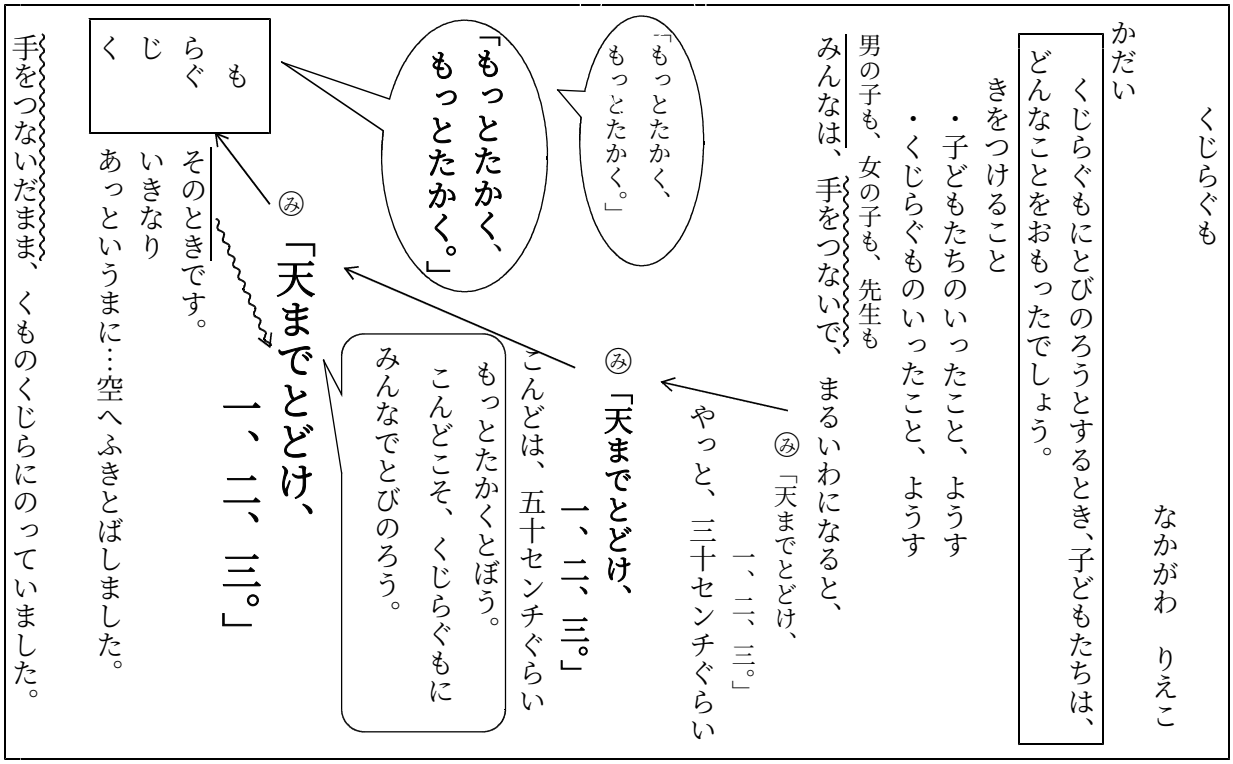
くじらぐもにとび乗ろうとする子どもたちの様子や気持ちを想像したり、はっきりとした声で読んだりすることができる。

（２）本時の評価の観点と具体の評価規準

具体の評価規準 観点	A十分満足できる	Bおおむね満足できる	C努力を要する 児童への手立て
読む能力	会話文から、くじらぐもにとび乗ろうとする子どもたちの様子を想像し、気持ちが高まっていることを想像し、発表したり、ふき出しに書いたりしている。 例）「くじらぐもさん、きみのところまでいけるように、みんなでこえをあわせてとぶよ。がんばるからまっててね。」	会話文から、くじらぐもにとび乗ろうとする子どもたちの様子や気持ちを想像し、ふき出しに書いている。 例）「もっとたかく、とぼう。」 「くじらぐもさん、おうえんしてくれてありがとう。」 「こんどこそ、くじらぐもにとびのろう。」	自分なりに想像できない児童や言葉に表せない児童には、ヒントとなる言葉を示すと共に、友だちの発表や板書を手がかりに考えればよいことを助言する。
	語のまとまりや会話文の声の大きさなどに気を付けて、様子が表れるように声に出して読んでいる。	語のまとまりに気を付けたり、会話文をはっきりとした声で読んだりしている。	語のまとまりに気を付けることや、友だちの読み方の上手なところを参考にすることを助言し、声に出して読むようにさせる。

（３）展開

段階	学習活動 ○発問　・期待する児童の反応	教師の関わり方 ・留意事項　◎評価
見通す 5分	1　前時の学習を振り返る。 2　学習課題を確認する。 くじらぐもにとびのろうとするとき、子どもたちは、どんなことをおもったでしょう。 3　読みの視点を確認し、学習の見通しをもつ。 ・子どもたちのいったこと、ようす ・くじらぐものいったこと、ようす	・掲示を使い、くじらぐもにとび乗ろうとみんなが張り切っていることを簡単に振り返る。 ・挿絵を提示し、子どもたちの様子を簡単に話し合う。 ・誰が何と言っているのか、何をしたのか、会話文や様子に気を付けて読めばよいことを確認する。
深め る 35分	4　学習場面を音読する。 5　学習課題を解決する。 （1）くじらぐもにとび乗るまでの子どもたちの様子を読み取る。 ○子どもたちはすぐにとび乗ることができましたか。 ・３回ジャンプした。 ・最初は少ししかとべなかった。 ・１回目は30センチ、２回目は50センチ、３回目に乗ることができた。 ○２回目は、どうして１回目より高くとべたのでしょう。 ・くじらぐもが応援してくれたから。 ・子どもたちが何度もとんだから。 ・子どもたちが１回目より大きな声を出したから。 ・くじらぐもに乗りたかったから。 ○２回目の「天までとどけ、一、二、三。」の言葉は、どのように読めばよいでしょう。 ・１回目より大きな声で読む。 ・１回目より元気よく読む。 ○３回目の「天までとどけ、一、二、三。」の言葉は、どのように読めばよいでしょう。 ・２回目よりも、大きな声で読む。 ・２回目よりも、声をそろえて読む。 ○子どもたちはどんなことを思いながら、３回目にジャンプしたのでしょう。	・誰が言ったことかを考えながら一斉読させる。 ・読みの視点を基に、子どもたちの様子を見つけさせる。 ・30センチ、50センチの読み方や高さについて確認する。 ・子どもたちが「天までとどけ、一、二、三。」と言ってジャンプしたことを確認する。 ・くじらぐもの「もっとたかく。」の読み方について考えさせることにより、くじらぐもが子どもたちを応援する気持ちが高まっていることを確認する。 ・大きな声で読んだ方がよい理由を考えさせ、くじらぐもにとび乗りたいという子どもたちの気持ちも高まっていることを想像させる。 ・３回目の「天までとどけ、一、二、三。」の前にどんなことを思ったのか、学習シートに書かせる。 ◎とび乗るまでの子どもたちの気持ちを学習シートに書くことができたか。

	（２）くじらぐもにとび乗ったときの子どもたちの様子を読みとる。 〇子どもたちが３回目にジャンプしたとき、どんなことが起こりましたか。	（学習シート・発言） ・「そのとき」「あっというまに」の意味を確認する。 ・「手をつないだまま」からみんなの気持ちが一つになったままであることに気付かせる。
まとめる ５分	６　まとめの音読をする。 ７　本時を振り返る。 ８　次時の予告をする。	・本時の学習場面を役割読みさせる。 ◎語のまとまりに気を付けたり、会話文をはっきりとした声で読んだりすることができたか。（音読） ・学習シートに自己評価を記入させる。

（４）板書計画